

「学びの变革」指導事例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 作業学習（紙漉き）
- ◇学年 中学部Aグループ 第1学年3名，第2学年2名，第3学年1名（計6名）
- ◇单元名 「紙製品の製作」
- ◇目指す姿 『気づき，考える姿』
- ◇単元の目標
 - 働くことの喜びを知り，進んで仕事に参加することができる。
 - 物を作ることの喜びを味わい，仕事への自信を持つことができる。
 - 分担された仕事を最後までやり遂げることができる。
 - 作業にふさわしい身だしなみや言葉遣い，マナー等を理解する。
 - 他の人を意識し，協力して作業する態度を身に付ける。
- ◇本時の目標
 - ・ 自分の分担した作業を最後までやり遂げることができる。
 - ・ 他の人を意識し，協力して作業することができる。
- ◇生徒の実態 3学年の縦割りの集団。全員が自閉的傾向の強い生徒で，決まったパターンの学習が得意であり，活動の見通しが立てば，集中して学習に取り組むことができる。挨拶や振り返りでは上級生がリーダーシップをとり下級生の手本となっている。1年生も先輩の様子を見て学び，落ち着いて学習に取り組むようになってきている。

＜学習過程（抜粋）＞

学習活動	指導上の留意点 □課題 ○支援 ☆評価		
	A	B	全体
3 作業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が担当する作業の道具を準備する。 ・ 自分が担当した作業を時間一杯行う。 ・ 友だちと道具や場所を共有しながら活動する。 	【漉く】 作業時間内に手漉きはがき9枚漉くことができる。 ○漉いた紙を乾かすためのベニヤ板に枠を予め作っておき，作った枚数や残り枚数を見て確認できるようにする。(T1) ☆作業時間内に手漉きはがき9枚漉くことができたか。	【ミキサーかけ】 ミキサーに入れるパルプ液の量を守ってミキサーをかけることができる。 ○量が多すぎたり，少なすぎたりした状態でミキサーをかけたようとしている場合は，量を確認させて修正させる。(T1) ☆ミキサーに入れるパルプ液の量を守ってミキサーをかけ	○作業について自分で考えたり，判断できるよう見守りながら，支援が必要なところを言葉掛けしたり，補助したりする。(T1)
漉いたはがきの並べる位置が分かる型枠の付いたベニヤ板の上に，実際にはがきを並べるアクリル板（透明）を用意することで，全て並べ切ったら次のアクリル板を自分で用意することができる工夫をしていました。また，目標カードを作業手元に置き，絶えず目標を意識しながら作業ができる環境の工夫をしていました。	ミキサーにパルプ原液を入れる量が分かる印や視覚的に攪拌時間が分かる砂時計，自分の作業領域が分かる印，バケツやミキサーを配置するエリアが分かる印等，一人で見通しを持って作業できる環境の整備及び教具の工夫を行っています。		

作業学習では，生徒に作業手順の理解支援や作業量，作業時間の見通しを持たせることで，可能な限り集中して作業を行うことができるようにしている。本授業では，これらの支援により生徒が作業に取り組むことができている。しかし，作業自体が雑な面が見られる。今後付けるべき力として，品質の向上のための作業的確かさ，丁寧さを指導していく必要がある。また，使用した教具についても，そのまま片付けるのではなく，付着したパルプを清掃するなど道具への扱いも指導する必要がある。